



現代に生きる 『大漢和辞典』

2022年5月25日(水)
元 大修館書店編集部
池澤正晃



小林康磨と鈴木一平

戦前版『大漢和辞典』 活字総量

1頁 = 21字詰37行四段組
= 3,168字×15,000頁
= **46,620,000**字

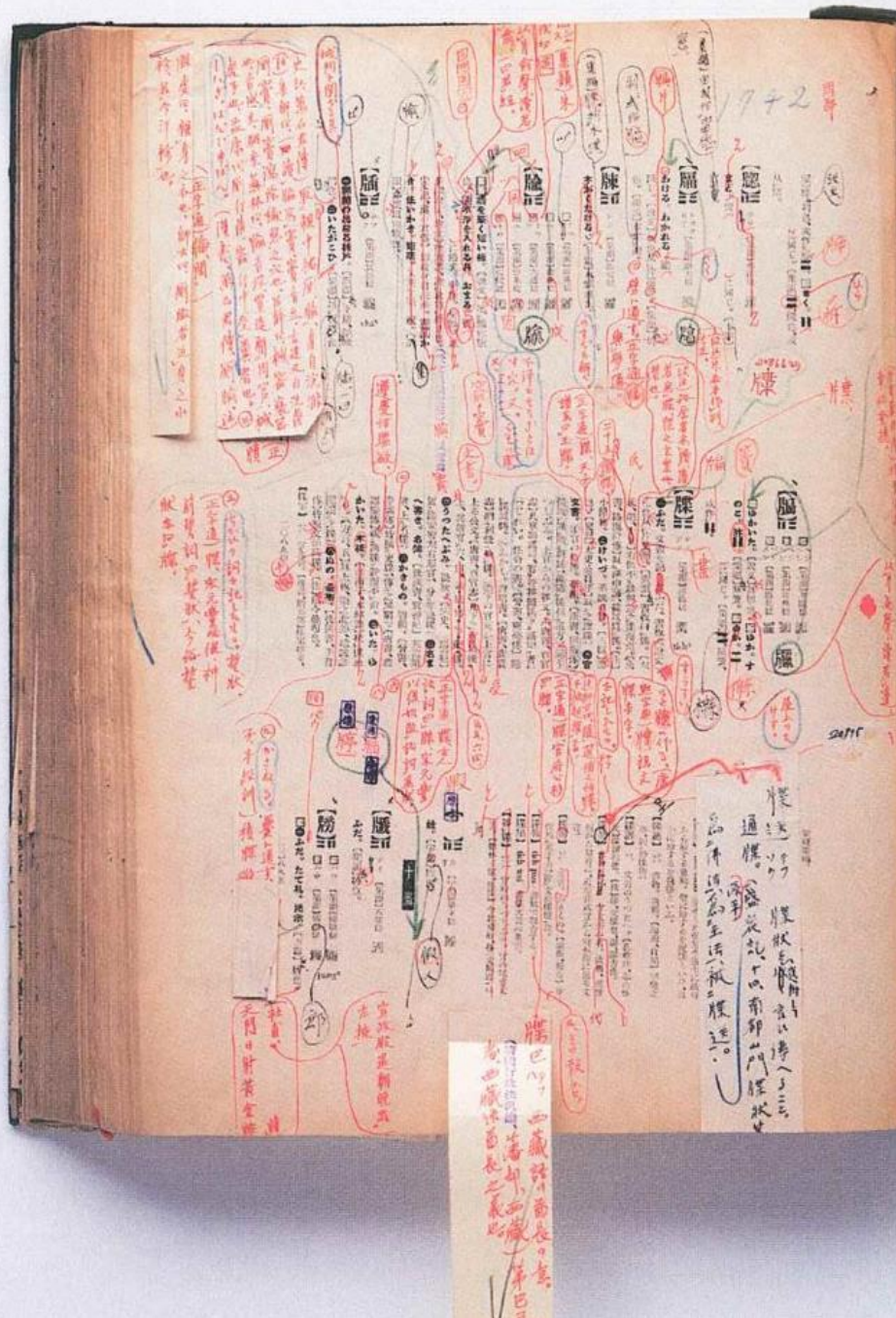
活字等作製数

| | | | 作製 | 改作 |
|-----------|------|----|----------------|---------|
| 作製 全活字 | 三号 | 木版 | 約63,900 | 約15,300 |
| | 八ポ | 母型 | 約 9,000 | 約 700 |
| | | 活字 | 約42,000 | 約 2,000 |
| | 七ポ | 母型 | 約10,000 | 約 1,000 |
| | | 活字 | 約43,000 | 約 3,000 |
| | 三号篆文 | | | 約13,200 |
| 挿図 | | | 約 2,850 | 約 50 |
| 総計 | | | 183,950 | |

鈴木一平「出版後記」より

[木版・活字彫刻] 岡（木版所）殿
片岡梅治殿
木村直吉殿
君塚與一殿（木版関係他二十余名、戦災に依り資料焼失）
増田（電気鉛版）殿

戦災を免れた 校正刷の一部





原字制作中の石井茂吉 (『文字に生きる〈写研五〇年の歩み〉』より)

- 「出版人の根性を示す偉大な出版物」 （鈴木敏夫『出版』）
- 「漢字が、すくなくとも量的には後退してゆくであろう明日を前にし、まだ漢字に対する豊かな貯蓄のあるうちに、その総決算をしておくことは、ぜひ必要である。今日をすごしては、再びこのような事業を企てることは、もはや不可能に近いであろう。」 （東京教育大学／小西甚一）
- 「今日の研究成果が取り入れられていない、まさに明治大正いろいろの旧漢学の集大成。しかし、語彙の用例を検索する際には、これほど豊富な大資料集は他に見当たらない。」

阿辻哲次 「戦後の漢字改革」

(『たて組ヨコ組』第36号(株)モリサワ発行1992)

「ワープロはこれまでの日本語筆記環境を根底から改変した革命的な機械であり、エンジニアたちの真摯な努力によって、漢字が扱えるようになったコンピュータを前にして、日本語の表記にはいま史上空前の変化がおきている。その結果、戦後はどちらかといえば厄介ものの扱いされていた漢字が、ワープロによって完全に復権を遂げたといっても過言ではないだろう。」

【規範性について】

■池田証壽（北海道大学） 「東京都立中央図書館諸橋文庫蔵 康熙字典の書き込みについて」 1999年訓点語学会

「近時、国語審議会において表外字の漢字字体が議論され、印刷標準字体として[いわゆる康熙字典体]を基本とする旨の中間報告が出されたが、[いわゆる康熙字典体]そのものに関する実証的研究は必ずしも充分とは言えない。」という主旨のもとに、昭和13年から15年にかけて諸橋轍次旧蔵の『康熙字典』内府本に記入された、親文字の字体の修正・追加を指示した約四百カ所の書き込みについて検証したものの。

✓漢字字体（特に康熙字典体）研究資料としての価値

「字体の修正指示は、『康熙字典』の字体の不統一をかなりカバーしていると認められ、「康熙字典体」を検討するための手がかりとして貴重である。」

『新字源』と『新漢語林』 その②

大修館『新漢語林』（2011年 第二版 第1刷）

角川『新字源』（2017年 改訂新版）

筆順 11
熙 15画 7074 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌ ㇍ ㇎ ㇏ ㇐ ㇑ ㇒ ㇓ ㇔ ㇕ ㇖ ㇗ ㇘ ㇙ ㇚ ㇛ ㇜ ㇝ ㇞ ㇟ ㇠ ㇡ ㇢ ㇣ ㇤ ㇥ ㇦ ㇧ ㇨ ㇩ ㇪ ㇫ ㇬ ㇭ ㇮ ㇯ ㇰ ㇱ ㇲ ㇳ ㇴ ㇵ ㇶ ㇷ ㇸ ㇹ ㇺ ㇻ ㇼ ㇽ ㇾ ㇿ ㇸ ㇹ ㇺ ㇻ ㇼ ㇽ ㇾ ㇿ ㇸ ㇹ ㇺ ㇻ ㇼ ㇽ ㇾ ㇿ

【熙】7071 正字 【灑】7076 同 【熨】6909 古字 【熙】7075 俗字

【熙】**字義** ①かわく。かわかす。②ひかる。光り輝く。③ひろい。広まる。広める。④おこる。興す。⑤やわらぐ。たのしむ。やわらぎたのしむ。よろこぶ。よろこび笑う。⑥おも。感嘆のことば。

【名・前】おき・ひと・のり・ひろ・ひろし・ひろむ・よし

【解字】**金文** 熙 **篆文** 熙 **籀文** 熙 **形声**。灑(火) + 熙(音符の熙)。熙は、授乳を待つ胎児の会意文字で、よろこぶの意味。火を付し、よろこびや光の意味を表す。

【熙熙】**キ** ①やわらぎ楽しむさま。【同例】唐、柳宗元、捕蛇者説「其余則熙熙而樂」**キ** ②みだらで情欲の多いさま。【老】老子、二十一「熙熙」

【熙春】**シ** 春。やわらいだ春。のどかな春。

【熙笑】**シ** 笑。やわらぎ笑う。よろこび笑う。嬉笑

6000 熙 火9 <13> 1-63-70 7155 漢 支 曉 之 ㄷ

6007 熙 火9 <13> 242EE 誤字

6005 熙 火10 <14> 1-63-71 7188 別体

6003 灑 火11 <15> 1-87-58 FA15 別体

6001 熙 火10 <14> 1-84-06 7199 俗字

6006 灑 火12 <16> 1-14-55 51DE 俗字

6004 灑 火11 <15> 別体

6002 熨 火7 <11> 2-79-78 7108 古字

【熙】**字義** ①ひかる。かがやく。「詩・大雅・文王於緝熙」**ニテ** 敬なり止 ②ひかり。かがやき。③ひろい。ひろまる。ひろめる。④おこる。おこす。「書・堯典」庶績^ル熙熙^ル 興^ル ⑤やわらぐ。ゆたたりする。和・怡^ル ⑥よろこぶ。よろこび。喜。⑦たのしむ。たわむれる。嬉^キ ⑧熙熙^キ ↓熙熙^キ おき・ひと・のり・ひろ・ひろし・ひろむ・よし

【熙熙】**キ** 和らぎ楽しむさま。一説に、情欲の多いさま。「老子」(三)衆人熙熙^{トシテ}、如^シ享^ク^ル 大牢^ト

【熙洽】**キ** 楽しみ和らぐ。

【熙春】**シ** 春。のどかな春。

【熙笑】**シ** 笑。楽しげにわらう。喜んでわらう。

【熙朝】**シ** 朝。よく治まている御代。盛世。昭代。

光熙・緝熙^ル・恬熙^キ・雍熙^キ

【機能性について】

- ① 総画索引 ② 字音索引 ③ 字訓索引 ④ 四角号碼索引
- ⑤ 部首索引(以上は「巻十三」)
- ⑥ 部首順による検字と総画順による検字（各巻の巻首に収載）
- ⑦ 熟語索引→別巻『語彙索引』

- ✓ 四角号碼索引は、1925年に王雲五によって考案されたもので、漢字の四隅の筆形を予め決められた0から9までの四桁の数字に置き換えて配列したものの。
- ✓ 戦前版には、「四角号碼索引」「熟語索引」のほかに「逆引き熟語索引」「挿図索引」の構想もあった。

【可読性について】

■石井茂吉「書体設計三拾年」 （『印刷情報』昭和31年1月号）

「母型界でも定めし苦心のことと思いますが、私共の長い経験では文字は民族の長い伝統と習慣を切りはなしては親しみのあるデザインは出来ない。毛筆で長いこと訓練されてきた我々が、毛筆の個性である筆始めの力、止めのセリフ等を生かして筆勢をとり入れるとなかなか味のある字が生まれてくる。タテの線がすべてが平行していればよいと思うが、実際にはある角度に曲げた方が平行して見える。つまり目の錯覚を考慮に入れない文字デザインは出来てみて読みにくいものである。

文字の可読性ということは、人間の目が一字一字を追わねば意味の分からぬようでは可読性はよいとは言えない。仮名交じりの文章は斜めに読んでもザッと意味が掴めるくらいにありたい。このために文字の個性を強調しておくことが大切で、同じ木偏でも旁（つくり）によってその形を変えるとといった文字のもつ個性を強調する。

文字図案のきまりということは一概には言えないが、**私は毛筆の個性を生かしてそのアクセントをとり入れたものが最も美しく、また読みよいという結論を得ている。**（談）」

「述べて作らず」 (『論語』述而第七)

先人の道を祖述するだけで、自分勝手な創作はしない。

新村出「辞書雑感」 (『富山房五十年』所収 1936年)

「編者の堅忍不拔、用意周到、統制力組織力。それから出版業者の資本力と寛容持久。印刷所がはの理解洞察。それから読者の鷹揚な忍耐力。これらが三拍子も四拍子も五拍子も揃ってこそ、最良無比の大辞典が出来よう。」

『大漢和辞典』の デジタル化

2022年5月25日(水)
大修館書店
デジタル事業開発部
山口隆志

1. デジタル化の道のり

● 立ちはだかる課題とその解決

- データベース作成 → ○公開データを活用
- フォント整備・テキスト化 → ×Unicodeに未登録の文字があり困難
- 紙では不可能だった検索方式の実装 → ○漢字直接入力や部品検索
- 商品形態…オンラインかオフラインか → △ランニングコストを鑑みオフラインに

● データベース作成

- 目視による校正が基本、部首・画数・読みなど漢和辞典のインデックスは種類が多い

● フォント整備・テキスト化

- テキスト化を諦める代わりに、全ページの紙面画像をスキャン

● 紙では不可能だった検索方式の実装

- 公開データを使い部品検索を実装

2. デジタル化の利点

- **親字であればすぐに調べられる**

- 漢字の直接入力であればあっという間に
- 異体字もすぐに見つけられる ※現代の漢字使用における異体字のみ
- 読みがわからなくても、部品検索を使えば絞り込みは簡単

- **場所を取らない**

- 机の上に何冊も広げて調べる必要がなくなる

- **一冊一冊取り出す手間が省ける**

- どの巻でもどのページでも、スクリーン上で閲覧できる

- **端末さえあれば場所を問わず引ける**

- 大漢和を引く場所が図書館や研究室に限定されない

- **新たな研究成果への期待**

- 従来手間のかかった、画数別や部品別の字数データがすぐに取りれる

大漢和辞典
デジタル版



3. 「Web版大漢和辞典」登場

- 『大漢和辞典』がジャパンナレッジ上で検索可能に

- 「デジタル版」のデータをすべて移植
- 部品検索など「デジタル版」独自の検索方法もジャパンナレッジで利用可能

- いよいよ他辞書との一括検索が可能に

- 『日本国語大辞典』『国史大辞典』などとまとめて検索できる
(『大漢和辞典』はJK Libの追加コンテンツです)

- 今後バージョンアップを予定

- まずは熟語の検索機能実装から
- より引きやすく、より使いやすくなるよう、機能強化を行っていく予定



Japan Knowledge Lib 大修館書店 **公開!**
親字5万字の検索がジャパンナレッジでできる!
Web版 **大漢和辞典**
親字5万字、熟語53万語を収録した漢和辞典の最高峰。全親字が読み・部首・画数で引けるだけでなく、漢字の直接入力や部品による検索も可能です。本文は専用ビューアで紙面そのまま表示されます。
詳しくはこちら ※「大漢和辞典」はジャパンナレッジLibの追加コンテンツです。ご利用には別途利用料が必要です。